

壱岐島霊場巡り

壱岐の風物に出会うなら「美濃の谷参り」

補陀洛や 岸うつ波は 三熊野の
那智のお山に ひびく滝津瀬

春の彼岸に入ると、島人は青竹に季節の花（椿・水仙など）をさした杖を手に33カ所の観音堂巡りをして先祖の霊を弔う、これが壱岐の名物「みのんたんさん参り」で、彼岸の中日がお参りのピークとなる。



各お堂はあふれんばかりのロウソク



と線香の煙に包まれ、米や賽銭そしてこの日ならではの菓子で手まりを少しつぶした様な「へそ菓子」が供えられ、各札所のご詠歌が唱えられる。

車のなかった頃は泊まりがけで全てのお堂を回ったという、その姿は笈摺（白装束）と呼ばれ身を守ってくれた着物を

いい33番目のお堂に笈摺を脱いで納め先祖の供養を終えたという春の風物詩です。

いままでは おやと頼みし 笈摺を
脱ぎて納むる 美濃の谷汲



車の時代が変わっても春の彼岸には青竹を手にした人が続き、ご詠歌が聞こえ・・・すれ違う人が笑顔を交わしあいこの島は良い島だとつくづく感じる。

ふれあいの旅に出かけませんか？どこかのお堂で会いましょう！